

開会挨拶

尾崎 春樹
国立教育政策研究所長

- 報告書作成に当たり、当日の発言内容に修正を加えていることがあります。
- 所属団体、職名は2013年12月10日現在のものであります。

開会挨拶

国立教育政策研究所長
尾崎 春樹



こんにちは。本年度の教育改革国際シンポジウムの開催に当たりまして、主催者を代表して一言御挨拶を申し上げます。

この教育改革国際シンポジウムは、諸外国の教育改革の最前線で活躍されている専門家の方々をお招きいたしまして、各国の経験から学ぶ、また、我が国の教育改革の実践にそれを生かしていくということを目的として、平成13年度から開催をして参りました。

本年度のテーマは、今、深掘先生から御紹介がありましたとおり、上に書いてありますけれども、「TUNING-AHELO コンピテンス枠組の共有と水準規定によるグローバル質保証」をテーマといたしました。今回のテーマに興味、関心をいただき、在日の約20か国近い大使館の皆様をはじめといたしまして、400名近くの方々に御出席をいただいております。誠にありがとうございます。

AHELOはOECDが進める卒業直前の大学生を対象とする調査で、大学生が大学教育を通して、どのような知識、技能を習得しているのか、どのような学習成果が達成されたのかということ、世界共通のテストを用いて測定することを目的としております。

平成24年度まで、そうした国際的な学習成果調査が可能かどうかという検証のためのfeasibility studyが行われて参りまして、17か国が参加をして、一般的技能、経済学、工学の3分野で展開をされてきました。我が国は平成20年1月に東京で開催されました「OECD非公式教育大臣会合」で、当時の渡海文部科学大臣からfeasibility studyへの参加の意思を表明されまして、中教審大学分科会の、OECD高等教育における学習成果の評価に関するワーキンググループの議論をいただいた後、工学分野で参加することを決定いたしました。我々国立教育政策研究所といたしましては、OECDの委託を受けた国際コンソーシアムのメンバーといたしまして、テスト問題の開発に取り組みますとともに、文部科学省の委託を受けて、ナショナル・センターとして、テスト実施のための事務局の役割を果たして参りました。

また、チューニングとは、学生が身につけるべき知識や技能、すなわちコンピテンスを専門分野の文脈の中で定義する方法、そしてそのコンピテンス枠組みを大学間で共有しながら、各大学がそれぞれの学位プログラムを構築する方法を指します。チューニングは2000年に欧州で発案されて以来、趣旨に賛同する大学が欧州にとどまらず、南米、ロシア、北米、アフリカ、オーストラリア、カナダ、中央アジア、タイ、中国など、各地域に拡大をして、世界的な展開を見せてきました。

AHELOの経済学分野と工学分野では、このチューニングの方法を用いて、コンピテンス枠組みを定義されまして、問題が作成されております。本シンポジウムのタイトルをTUNING-AHELOとしたゆえんでございます。

さて、このようなチューニングとAHELOの取組は、我が国の高等教育政策にとっても極めて重要な示唆を含んでいるというふうに考えます。日本では御案内のとおりグローバル化する知識基盤社会を牽引する人材を養成するために、大学教育にますます大きな期待が寄せられております。その一方で18歳人口が減少するその中で、大学進学人口が拡大するといったようなことの結果として、大学教育の質保証の問題が顕在化してきております。

日本の高等教育政策は1980年代の末から、多様化、個性化の路線をたどって参りましたが、近年では質保

証の基盤となる共通の枠組みづくりに重点がシフトしてきております。中教審による平成20年のいわゆる「学士力」答申がそれを象徴しておりますし、平成24年のいわゆる「質的転換」答申でも学位プログラムを確立する必要性とか、教学マネジメントの在り方に焦点が当てられております。このような環境の中でコンピテンス枠組みの共有と水準規定のための、具体的な方法としてのチューニング、あるいはAHELOといったようなものは極めて時機を得た重要なテーマというふうに考えております。

さて、今回のシンポジウムでは、国内外から7名の先生方をお招きいたしました。各先生には御多忙の中、本シンポジウムへの御出席を遠路はるばるいただきまして、心から御礼を申し上げます。

まず、基調講演は、長らく大学評価・学位授与機構の機構長として、我が国の高等教育の質保証を文字どおりリードしてこられました木村孟文部科学省顧問から、現行の大学評価制度の課題について、御講演をいただきます。第1部では、始めにオランダのフローニンゲン大学教授であるとともに、欧州単位互換・累積制度、ECTSですとか、欧州高等教育圏資格枠組み、欧州生涯学習資格枠組みといった欧州の高等教育を調和させるための主要なイニシアチブに携わってこられましたローベルト・ワーヘナール教授に、教育改革と学習のグローバルな測定や比較にチューニングコンピテンス枠組みがどのような役割を果たすのかという点について御紹介いただくことになると思います。

続きまして、全米高等教育経営システム研究所の副所長であるとともに、AHELOの技術諮問グループの座長でもありますピーター・ユーウェル博士に、AHELO feasibility studyの調査結果と、技術諮問グループの結論についてお話をいただきます。

さらに、AHELOの工学分野の専門家として、世界共通のテスト問題の開発で中心的役割を果たすとともに、国内12の参加大学の調査実施をリードしていただきました東京工業大学の岸本喜久雄教授から、日本におけるAHELOの取組と今後の展望についてお話をいただきます。

第2部のパネルディスカッションでは、筑波大学の金子元久教授にコーディネーターをお願いいたしました。金子先生はユーウェル博士と同様に、AHELOの技術諮問グループの委員としてfeasibility studyの在り方を御検討いただいた方でございます。

このパネルディスカッションでは、第1部で御登壇をいただいた方に加えまして、AHELO feasibility studyのカナダでの国内実施プロジェクトマネージャーを務められましたオンタリオ高等教育質保証カOUNシルのメアリーキャサリン・レノン上級研究アナリスト。それから、オーストラリアの国内実施プロジェクトマネージャーをお務めになりましたオーストラリア教育研究所のダニエル・エドワーズ主任研究員をパネリストとしてお迎えをいたしましたので、ディスカッションを行っていただきたいと思っております。このディスカッションを始めるに当たりまして、当研究所の先ほど皮切りをやっていただきました深堀聰子総括研究官から、日本、オーストラリア、カナダにおけるAHELO feasibility studyの取組につきまして、調査結果の活用の観点から報告をしていただいて、その後、深堀先生もディスカッションに加わっていただく予定になっております。

終わりになりますけれども、AHELOのfeasibility studyは、昨年12月に終了いたしまして、現在、OECDの方で本調査の実施の有無が検討されている段階でございます。その行方にかかわらず、学位プログラムの体系化を目指す我が国の高等教育政策や、具体的な取組に着手している各大学にとりまして、本シンポジウムTUNING-AHELOから得られる示唆は、極めて大きいのではないかと考えております。

本シンポジウムが、我が国の大学教育の改善に大いに寄与することを期待いたしまして、主催者からの御挨拶とさせていただきます。以上でございます。